ReAL

2014.1 Vol.21
NIKAKAI ASSOCIATION OF PHOTOGRAPHERS

絵に描いた餅

文・イラストレーション＝南　伸坊

「鏡餅の重なっているところを、上から描くにはどうしたらいいか？」というクイズを出題したのは、平賀源内だったと言われています。

日本の絵は、輪郭線で描くというのが基本で、そこに陰影を描き込むということをしませんでした。鏡餅を上から描こうとすると〝丸く切り抜いた大小の半紙を重ねたもの〟とか〝大小の針金の輪っかを同心円状に置いたところ〟と区別がつけられない。

が、現代のわれわれには、これはそもそもクイズになりません。陰影のついた重ね餅を初めからイメージしてしまう。

平賀源内は、日本で油絵を描いた最初の人と伝わっていますが、鏡餅の絵をみごとに描けたかどうか、それはわからない。源内の描いた（というか何かの模写だと思いますが）『西洋婦人図』の腕前は、全然たいしたことないです。

それに比べると、高橋由一の『豆腐』は「みごとである！」と、私は殿様じゃないけど褒めてつかわしたい。「天晴れである！」と褒美をとらせたいです。

高橋由一なら、突然「半紙の上に豆腐がのっているところを直ちに描けい！」と殿様に命じられても、「只今！」と言って即座に描きはじめるでしょう。

高橋由一といえば、食べかけの鮭の絵が有名ですが、私は『豆腐』こそが、もっとも由一らしい仕事であると思っています。どういう絵かと言いますと、俎板の上に、豆腐と焼き豆腐二丁、油揚二枚がのっているところを描いた絵です。

こんな絵を描いた画家は、油絵の本場には一人もいない！

西洋に豆腐や焼き豆腐や油揚がないということもありますが、そういう絵を描く動機がないからです。

この絵には「自分たちが持っていた常識や知識の枠組とは、まったく違う考え方や技術がある」と、それに気がついた喜びがあふれています。

由一も西洋人の画家に教えを受けてはいますが、もっと時代が下って、本場まで出かけて行って本場仕込みの油絵を描いた画家たちと決定的に違うのは、この「まったく違う文化」に触れた時の湧き起こってくる好奇心や喜び、高揚感の強さでしょう。

本場まで行ってきた画家たちは、たいていあちらに呑み込まれてしまう。だから日本に帰ってきてから、油揚を描こうとした人はいません。

むしろ、高橋由一のような好奇心や高揚感を持ったのは、同時代の西洋人の画家たちのほうだったのじゃないのか。マネやモネといった印象派の画家たち、中でもゴッホは、日本の絵に深刻な影響を受けています。

普通、印象派の起こった説明によく言われるのは、〝写真の登場〟ということです。肖像画が、写真に取って代わられた。画家は「写真に出来ない、絵によってのみ出来る表現」に向かわざるを得なくなったのだという理屈です。

この説明は一見わかりやすいけれど、果たしてそうか？　この頃の写真というのは、もちろん「そっくり」に撮れるけれども、画面サイズは小さいし、第一、色がついていません。

壁に映った横顔の影を引き写す「シルエット」の技法が、お手頃の「肖像画」として需要があったと言われますが、写真は、それのもうちょっと高級なもの、くらいな感じだったのではないか。

実は、写真術には化学変化で光を定着する技術が発明される以前に、長い長い前史がありました。画家は、その写真術の前段階の装置によって、既に現在のカラー写真に匹敵するクオリティーの絵を描いていたのです。

それは当時の人々には、ほとんど魔法のようだったと言っていいでしょう。いまでも写実的な絵画を見ると、たいがいの人は「まるで写真みたいだ、とても人間が描いたとは思えない！」と、驚きを表現します。

が、光学的な装置の補助で正確な輪郭をとり、根気よく陰影を描いてゆくと、写実的な絵を描くのは技術的に可能な人間業の範囲です。

画家の技術が秘術でなくなった、というよりも、それを秘術として長いこと成立させてきた画家の仕事、というものに「疑問」を持ってしまったというのが、

「印象派の起こった理由」ではないかと私は考えています。

人々を秘術で驚かすということで、西洋の美術史は四、五百年続いてしまっていた。そこにまったく違った技術の、日本の絵（もっとも影響があったのは浮世絵だと思います）が入ってきた。色彩も構図も、テーマもデッサンの方法も、あらゆる要素において西洋画と違う絵。この絵にショックを受けることが出来たのは、好奇心と絵を描く楽しみに魅入られていた若者たちだったでしょう。

それは、西洋の高橋由一たちであったと言えます。

ところで、私は印象派に対して、由一の絵を見る時のような昂揚をなかなか感じられないんですが、これは「由一の絵をフランス人が評価している」という話をあまり聞かない、のと見合っているのかもしれません。

みなみ・しんぼう
1947年東京生まれ。イラストレーター、装丁デザイナー、エッセイスト。
著書に『のんき図画』（青林工藝舎）、『装丁／南伸坊』（フレーベル館）、『本人の人々』（マガジンハウス）、『歴史上の本人』（朝日文庫）、『健康の味』（白水社）、『笑う茶碗』『狸の夫婦』（筑摩書房）、『黄昏』（糸井重里と共著、東京糸井重里事務所）など多数がある。

「石川の伝統を撮る」撮影会 優秀賞作品

撮影会＝2013年10月19日（土）・城下町金沢城公園三の丸広場　主催＝一般社団法人二科会写真部石川支部

優秀賞「秋思」中西武臣（兵庫支部員）

優秀賞「加賀獅子　棒振り」内山　修（三重支部員）

優秀賞「城下町」おおいし和子（会友・兵庫支部）

優秀賞「豊穣の舞」松下紀和（兵庫支部員）

優秀賞「威嚇」広瀬直子（兵庫支部員）

優秀賞「決める」吉田慶子（兵庫支部員）

優秀賞「本番前」久志本洋子（一般・大阪）

優秀賞「熱演」大和啓子（兵庫支部員）

REAL賞「ファミリー」赤平　薫（秋田支部員）

REAL賞「阿波踊り連」小林宏良（神奈川支部員）

REAL賞「能楽・花筐　愛しき君よりの文（シテ 喜多流 出雲康雅）」
有泉義行（山梨支部員）

REAL賞「運動会」酒井　保（茨城支部員）

REAL賞「夕日を浴びて」有川昌子（東京支部員）

REAL賞「紅の極め」中山　弘（長野支部員）

REAL賞「魚ファンタジー」中山和子（山梨支部員）

REAL賞「空港にて」松島　寛（東京支部員）

selection guide

日本の世界遺産

山梨県
静岡県

富士山

信仰の対象と芸術の源泉 【世界文化遺産】

写真・文＝小林栄明（会員・山梨支部）

日本人の心のふる里として仰ぎ見る富士山は「信仰の対象と芸術の源泉」として、２０１３年に複数の構成資産とともに世界文化遺産に登録されました。大きく裾野を広げた荘厳で秀麗な山容は、圧倒的な魅力を秘めています。

信仰の対象としての霊峰富士

霊峰富士に鎮座する神様は、浅間大神（あさまのおおかみ）です。富士山は古代より噴火を繰り返し、その荒ぶる自然の力に人々は畏怖の念を抱き、神が宿る神聖な山として崇めてきました。そして噴火を鎮めるために浅間神社を建立し、鎮火祈願を行ってきました。

噴火活動が沈静化する平安時代後期になると富士山は修験道の道場となり、室町時代後半には、修験者とともに一般庶民も登拝するようになりました。江戸時代中期に「富士講」が関東を中心に大流行し、多くの人々が富士登山や富士五湖など霊地への巡礼を行いました。

芸術の源泉としての富士山

美しい富士山は日本人の美意識や芸術の世界にも大きく影響してきました。文学では『万葉集』や『古今和歌集』をはじめ古典作品・俳句・小説など様々な創作活動の題材になってきました。

絵画に描かれた富士山は平安時代に始まり、江戸時代には葛飾北斎や歌川広重などがいろいろな場所から見た富士山を描き、近代日本画では横山大観や梅原龍三郎など数多くの作品を残しています。

明治生まれの写真家・岡田紅葉は、ライフワークとして富士山を生涯撮り続けました。現在なお多くの写真家がカメラの放列を富士山へ向け対峙しています。

「三ツ峠から白雪の富士」　三ツ峠から1月に撮影。河口湖の北東に位置する三ツ峠からは、四季を通じて美しい風景が撮影できます。三ツ峠登山口バス停から1時間50分ほど登りますが、富士山の端正な山容が眺望でき、写真愛好家にも人気の撮影ポイントになっています。

「パール富士」　忍野から5月に撮影。月没のパール富士は、国道R138に沿って季節により南北に移動（夏季は北方向）して撮影。月の出のパール富士は、国道R139に沿って南北に移動（夏季は北方向）して撮影。また、月の出は満月の前日が、月没は翌日がよいようです。

富士五湖と周辺撮影地

富士山の撮影を楽しんでいただくために富士五湖と周辺をご紹介します。

【本栖湖】（構成資産・富士河口湖町）
富士五湖の最西端に位置し、透明度が高く、瑠璃色にきらめく湖水の美しさも素晴らしい。

【精進湖】（構成資産・富士河口湖町）
富士五湖でもっとも小さい湖。静寂に包まれ、四季折々の豊かな表情を見せてくれます。

【西湖】（構成資産・富士河口湖町）
富士五湖の中央に位置し、周辺に広がる青木ヶ原樹海は、日本で唯一最大の溶岩上に形成された原生林です。

【河口湖】（構成資産・富士河口湖町）
四季を通して富士山を飾る様々な前景があります。北側の湖畔からは富士山の美しい山容のパノラマが望め、湖面に映る逆さ富士を楽しむことができます。

【山中湖】（構成資産・山中湖村）
富士山に一番近い位置にある山中湖はなだらかな山々に囲まれた明るい湖。ここからダイヤモンド富士、パール富士、赤富士、紅富士など撮影できます。

【忍野八海】（構成資産・忍野村）
富士山の雪解け水が伏流水となり、約20年の歳月をかけて地下の溶岩の中を流れた湧水が、村内に8カ所の神秘的な泉をつくっています。

【白糸の滝】（構成資産・富士宮市）
富士山の伏流水が歳月を経て岩壁の隙間から噴出して滝を形成。水流が幾筋もの絹糸のように流れ落ちる様から「白糸の滝」と名付けられています。

【三保の松原】（構成資産・静岡市）
三保の松原の松林のスケールと美しさは日本新三景、日本三大松原の一つに数えられ、波打ち際から松林を前景に望む富士山は、まさに圧巻です。

【その他】富士山の山開き、吉田の火祭り、富士五湖の湖上祭など行事が多くあり撮影が楽しめます。

「白糸の滝」　富士山の湧水が幾筋もの白糸のように流れ落ちる神秘的な滝。

2014第62回 二科会写真部展 公募規約

「第62回二科会写真部展」に作品応募される場合は、必ず「公募規約」をご請求ください。

【応募要項(概要)】

■募集部門
◎A 単写真部門＝銀塩写真／デジタル写真のいずれも可
◎B 組写真部門＝銀塩写真／デジタル写真のいずれも可
※単写真部門と組写真部門への同時応募も可。

■応募資格
18歳以上に限る（アマ、プロ、国籍は問わない）

■テーマ
自由（公序良俗に反しない内容において自由）

■応募点数
制限なし

■応募形態
◎A 単写真部門＝1枚写真に限る
◎B 組写真部門＝3枚組みの組写真に限る
※両部門ともに四ツ切・A4 サイズのカラーおよびモノクロプリントに限る。電子メディア(MO、CDなど)は不可。

■応募受付期間
2014 年 3 月 1日(土)～3月7日(金)(消印有効)

■応募方法
◎単写真＝プリント裏面に規定の「応募カード」を貼付し「応募票」を同封して送付
◎組写真＝プリント裏面1枚ごとに規定の「応募カード」を貼付して1組3枚をタテに繋ぎ合わせ、「応募票」を同封して送付
※郵便または宅配便で送付のこと（直接持参は不可)。

■応募料
◎A 単写真部門＝1点につき2,000円
◎B 組写真部門＝3枚1組につき5,000円
※応募料は専用の「払込取扱票」に金額など所定事項を記入し、3月7日までに郵便局で払込みのこと。

■送付先
〒106-0031　東京都港区西麻布1-4-20-601
二科会写真部「第62回展」係
TEL03-3470-8033

■審査
◎一次審査＝4月中旬（入選内定作品を選出)
◎二次審査＝6月中旬（展示用大伸ばしパネル貼りで審査して入賞・入選作品を決定)
※入選作品は両部門とも1人1点とする。
◎審査員＝一般社団法人二科会写真部 特別会員・会員

「第62回二科会写真部展」公募ポスター

■審査結果発表
審査結果は6月末に応募者全員に直接通知。
入賞・入選の公式発表は 7 月 7 日(月)に行う。

■賞
◎二科賞（賞状・賞金50万円)
◎全国知事会賞（賞状・賞品)
◎日本カメラ財団賞（賞状・賞品)
◎協賛会社賞（賞状・賞品)
◎奨励賞（賞状・副賞)

■作品展示
◎会期＝ 9 月 3 日(水)～15日(月)
◎会場＝国立新美術館（東京・六本木)

■展示料
◎A 単写真部門＝12,000円　◎B 組写真部門＝22,000円

【応募規定(概要)】

①未発表作品に限る。
応募作品は応募者本人が撮影した写真で、未発表作品あるいは発表予定のないものに限る（類似作品および二重応募と判断した場合は入選決定後でも入選を取消す)。
②応募プリントはフチ付きで台紙などには貼らないこと。
③応募作品は希望者にのみ返却する（有料)。

●「公募規約」請求先
二科会写真部「第62回展」係
〒106-0031　東京都港区西麻布1-4-20-601
FAX：03-3470-8034
E-MAIL：info@nika-shashin.or.jp
※FAX、Eメール、葉書でご請求ください。二科会写真部ホームページからもダウンロードできます。

■支部展情報

●宮崎支部展
会期：1月28日(火)～2月2日(日)
会場：宮日会館2階ギャラリー

●第50回山口支部公募展
山口支部公募展を県内4カ所で開催。
会期：1月10日(金)～12日(日)
会場：和木美術館
会期：1月31日(金)～2月2日(日)
会場：光市文化センター
会期：2月14日(金)～16日(日)
会場：宇部市文化会館
会期：2月21日(金)～23日(日)
会場：山口市小郡文化資料館

●青森支部写真展
会期：2月21日(金)～23日(日)
会場：青森市民美術展示館展示室4階

●群馬支部第39回支部展
会期：2月21日(金)～25日(火)
会場：高崎シティギャラリー第1展示室

●第6回大分支部写真展
会期：3月10日(月)～16日(日)
会場：アートプラザ市民ギャラリーA

●鳥取支部写真展
鳥取支部展を2カ所で開催。
会期：3月21日(金)～26日(水)
会場：中電ふれあいホール
会期：8月8日(金)～12日(火)
会場：米子市美術館第一展示室

●第46回神奈川支部公募展
会期：4月22日(火)～28日(月)
会場：みなとみらいギャラリー

●第52回二科茨城支部展
会期：5月17日(土)～22日(木)
会場：茨城県民文化センター

●第5回和歌山支部展
会期：6月6日(金)～10日(火)
会場：ギャラリー花畑

●第41回静岡支部公募展
会期：6月10日(火)～15日(日)
会場：静岡県立美術館県民ギャラリー

■特別会員・会員・会友・支部員情報

●高倉百合子写真展「凍てつく朝に」
広島支部・高倉百合子会友が東京・六本木で個展を開催。
会期：2月14日(金)～20日(木)
会場：富士フイルムフォトサロン東京

●山川常男写真展「狐の行列」
東京支部・山川常男会員の個展。
会期：2月20日(木)～26日(水)
会場：オリンパスギャラリー

作品募集 「REAL ベストフォトコンテスト」作品募集

≪4月15日(火)締切り！≫

広報誌『REAL』では、全国各支部員を対象に誌上フォトコンテストを実施します。日ごろの写真活動の成果である最上の作品をどしどし応募してください。

【募集要項】

●募集対象：一般社団法人二科会写真部47支部の支部員に限る
●テーマ：自由（未発表作品に限る)
●応募作品：カラー及びモノクロのプリント
A 4 判～四ツ切・単写真に限る
タイトル・氏名・住所・電話番号を記入した応募票（自作）を作品裏面に貼付
●応募点数：制限なし
●募集締切：2014年4月15日(火)消印有効
●応募料：無料
●審　査：広報誌『REAL』編集委員会
●REAL賞：10名以内（優秀作品を『REAL』に掲載)
●発　表：広報誌『REAL』22 号に掲載
入賞者のみ本人に直接通知、ホームページに掲載
●作品返却：応募プリントは返却しない
●応募方法：郵送または宅配便で送付のこと
●応募先：二科会写真部
「REALフォトコンテスト」係
〒106-0031　東京都港区西麻布1-4-20-601
●問合せ先：同上（TEL：03-3470-8033)
●主　催：一般社団法人二科会写真部

INFORMATION

■表紙のことば

「フォロ・ロマーノにて」大竹省二 創立会員

フォロ・ロマーノは、ローマにある古代ローマの遺跡。フォロとは広場、すなわちローマ市民の広場を意味する場所で、古代ローマの歴史を刻んできた場所である。そしてローマ帝国滅亡とともに土砂の下に埋もれ、長く人々から忘れられていた。発掘によって姿を現した遺跡を、イタリアの太陽が明るく浮かび上がらせた。

■2014年度行事予定

◎2014年度春期定時会員会友総会（出席者は特別会員・会員・会友）
2月25日（火）／東京プリンスホテル
◎会員・会友・支部長等連絡会議（出席者は特別会員・会員・会友・支部長・副支部長）
2月25日（火）／東京プリンスホテル
◎懇親会（出席者は特別会員・会員・会友・支部長・副支部長）
2月25日（火）／東京プリンスホテル
◎第 62回展一般公募の応募作品受付
3月1日（土）～7日（金）の 7日間
◎第 62回展特別会員・会員・会友の作品受付
3月10日（月）～11日（火）の 2日間
◎第 99回二科展（＝第 62回写真部展）
9月3日（水）～15日（月）国立新美術館
◎2014年度夏期定時会員会友総会（出席者は特別会員・会員・会友）
9月5日（金）／東京プリンスホテル
◎第62回二科会写真部展授賞式・懇親会（出席者は来賓・特別会員・会員・会友・入賞者・入選者および同伴者）
9月5日（金）／東京プリンスホテル

■2014年1月1日から新支部長47名が就任

（任期：2014年1月1日～2015年12月31日）

北海道支部長／斉藤憲司（会員・留任）、青森支部長／宗前敏光（会員・再任）、岩手支部長／角田良一（会員・留任）、秋田支部長／小野寺泰雄（会員・新任）、山形支部長／小林新平（会員・留任）、宮城支部長／櫻井孝一（会員・再任）、福島支部長／真部信太郎（会友・新任）、群馬支部長／井田裕二郎（会員・留任）、栃木支部長／鯉沼孝雄（会友・新任）、茨城支部長／村松義一（会友・新任）、新潟支部長／須川敏春（支部員・留任）、東京支部長／米山悦朗（会友・新任）、神奈川支部長／榊原俊寿（会員・新任）、千葉支部長／大門伝弘（会員・再任）、埼玉支部長／槇島昇（会員・留任）、山梨支部長／小林栄明（会員・留任）、長野支部長／細川伸吉（会員・新任）、福井支部長／佐々木政幸（支部員・新任）、石川支部長／工俊治（会員・再任）、富山支部長／稲澤一彦（会員・留任）、静岡支部長／薩川高宏（会員・留任）、愛知支部長／平出勝也（会員・新任）、岐阜支部長／加藤徹（会員・留任）、三重支部長／矢田新男（会員・新任）、京都支部長／八木富夫（会員・新任）、滋賀支部長／南村初江（会員・留任）、大阪支部長／水谷勝昭（会員・新任）、兵庫支部長／山岡成男（会員・新任）、奈良支部長／出合章泰（会友・留任）、和歌山支部長／前和幸（会員・留任）、岡山支部長／神達勝之（会員・留任）、広島支部長／瀬野秀明（会員・新任）、山口支部長／宮原博美（会員・再任）、鳥取支部長／岩下直行（会員・留任）、島根支部長／佐々木聡（会員・留任）、香川支部長／安野文子（会友・留任）、徳島支部長／平野史子（会友・留任）、高知支部長／永澤悦穂（会友・留任）、愛媛支部長／宇都宮幸種（会友・新任）、福岡支部長／中野洋七（会友・新任）、大分支部長／廣瀬文隆（会員・留任）、長崎支部長／岡部勇三（会員・再任）、佐賀支部長／雪竹智（会員・留任）、宮崎支部長／松下裕美（会員・再任）、熊本支部長／宮崎喜一（会員・再任）、鹿児島支部長／菊川浩行（会員・再任）、沖縄支部長／添石幸安（支部員・留任）

■2014年度特別会員認定者 2名

（2014年1月1日付）

藤田正次特別会員（佐賀）
朝日正特別会員（群馬）

■石川撮影会が盛況裡に開催さる

石川支部主催の撮影会「石川の伝統を撮る」が、秋も深まる10月19日(土)に金沢市の金沢城公園にて開催。
撮影対象は石川県を代表する郷土芸能「御陣乗太鼓」「加賀鳶梯子演技」「加賀獅子」に加えて「東茶屋芸妓のモデル撮影」と盛り沢山の演目を準備。
当日は全国各地から会員・会友・支部員のほか一般参加も多数あり、参加者数は167名。天候にも恵まれて盛況でした。
会場では参加者をA・Bのグループに分けて、AとBグループが演技者と演技場所を交替して撮影。Aグループは森井禎紹会員、工 俊治会員が撮影指導、Bグループは蜂須賀秀紀会員、土田貴夫会員が撮影指導しました。
石川支部員は撮影に参加することなく全員で会場整理などにあたり、撮影会の世話役に徹しました。　（石川支部 工俊治会員）

■『第61回展二科会写真部作品集』

2013年度「第61回二科会写真部展」の展示作品総1464点を収載した貴重な作品集。
頒布価格 15,000 円。特別会員・会員・会友・支部員および第61回展入賞者と入選者は特別価格 13,000 円。支部員以外の第61回展応募者は 14,000 円。いずれも送料実費。

■第98回二科展（＝第61回写真部展）地方巡回展スケジュール

◎鹿児島展：2014年3月5日(水)～16日(日)
鹿児島県歴史資料センター黎明館
◎福岡展：2014年3月25日(火)～30日(日)
福岡市美術館

■特別会員・会員・会友情報

小原英治会員(大阪)2013年11月11日自主退会
川上惠美子会友(大阪)2013年11月30日自主退会
井上俊正会員(佐賀)2013年11月30日自主退会
本田洋子会員(千葉)2013年12月31日自主退会
柿崎ときじ会員(埼玉)2013年12月31日自主退会
光田せいすけ会員(愛知)2013年12月31日自主退会
本田政春会員(熊本)2013年12月31日自主退会
湯田秀昭会員(岡山)2013年12月31日自主退会
戸間替治男会友(青森)2013年12月31日自主退会
髙浜八郎会友(石川)2013年12月31日自主退会
長谷川雄二会友(神奈川)2013年12月31日自主退会
志摩育美会友(徳島)2013年12月31日自主退会
西園禮三会員(福岡)2013年12月31日自主退会
中島トヨ子会員(兵庫)2013年12月31日自主退会
赤塚弘光特別会員(広島)2013年12月28日逝去
川口芳郎会員(静岡)2013年12月31日逝去
山田隆夫会友(岐阜)2013年12月31日自然退会
小川武士会友(長野)2013年12月31日自然退会
秋山健児会友(栃木)2014年1月28日自主退会
川口登会友(福岡)2014年1月28日自主退会
詫間喬夫特別会員(愛知)2014年1月31日自主退会

二科会写真部広報誌「REAL」Vol.21
2014 年 1 月 31 日発行
発行所 / 一般社団法人二科会写真部
発行人 / 大竹省二
編　集 / 一般社団法人二科会写真部
〒106-0031 東京都港区西麻布 1-4-20
ワルトハイム西麻布 601
TEL. 03-3470-8033　FAX. 03-3470-8034
http://www.nika-shashin.or.jp